

# 報知ボーイズリーグ

## 2020秋—2021夏 九州ボーイズリーガーの軌跡

前編

# 熱闘

中学3年生は今月で卒部する。彼らが最上級生になった昨年9月以降はコロナ禍に球数制限の導入と激動の1年だったが、それぞれの目標に向かって懸命に白球を追いかけ、汗を流した。昨秋から今夏にかけて行われた地区大会や各種予選の激闘を写真で振り返る。前編は昨年9月から今年3月まで。※スポーツ報知西部本社ウェブサイトでは紙面に掲載していない写真も公開

別府

火の国大会、九州大会予選と2大会連続優勝を飾った



秋の九州大会初優勝。栗山大成主将が攻守にチームを引っ張った



春季全国大会予選決勝で打線がつながり優勝した



九州さわやか大会は最終回に4点差を逆転して優勝した



ふくやカップ初戦で福岡志免に0-1と健闘。春季全国大会予選でも3位に入った



筑後

予選準優勝で九州大会出場。11月の長崎県記念大会では優勝を飾った

南宮崎

宮崎で開催された九州大会は地元勢で

佐賀玄海

春季全国大会予選決勝で接戦を制して

宇佐

少人数ながら火の国大会で4強に入った

大分明野

九州さわやか大会は最終回に4点差を逆転して優勝した

八幡南

春季全国大会予選で8強入り。九州大会では優勝を飾った

火の国大会初陣。激闘の春季全国大会で初優勝を飾った

会はず世保が優勝した。九州大会の予選は近年、本戦に縁がなかったチームの躍進が目立った。福岡県北支隊決勝は鷹羽が対田に11-10と打ち勝ち、20年以上遠ざかっていた九州大会の切符を獲得。西九州支隊は2年生主体の伊万里が優勝して11年ぶりに出場。福岡県南支隊は予選3位の福岡西南が初出場を決めた。本戦決勝では熊本中

中央が14安打11得点でコールド勝ちした。春季全国大会予選は各地で激闘が展開された。北九州支隊決勝は八幡南が延長サヨナラ勝ち。福岡県北支隊決勝は刈田が壮絶な打撃戦を制して、九州大会予選で惜敗した鷹羽にリベンジ成功。佐賀玄海と宮崎は春初出場を決めた。4連覇を飾った糸島や鹿児島出水、大分明野はコールド勝ちで

21年最初の地区大会となった。3月の九州さわやか大会決勝は逆転で優勝。4強入りした湯布院や上津役の健闘も光った。西日本選抜優勝大会は予選に続いて女子主将が力投した。直方が優勝。春季全国大会は八幡南が8強入り。逃したが刈田や大分明野も

強敵相手に好勝負を展開した。優勝を飾った

宇佐

少人数ながら火の国大会で4強に入った

大分明野

九州さわやか大会は最終回に4点差を逆転して優勝した

# コロナ禍耐えて駆け抜けた

悔いなし!!3年生完全燃焼



春季全国大会2回戦でも打力を発揮。終盤に追い上げ1点差に迫った



準決勝、決勝とコールド勝ちで4年連続の春季全国大会出場を決めた



九州さわやか大会で4強入りした

九州古賀

日本少年野球連盟と同じ1970年に創部した。昨年が50周年。記念大会でも健闘を見せた

糸島

この大会は外野手だった高橋昂暉は後に捕手として活躍する

京築

21年最初の地区大会となった。3月の九州さわやか大会決勝は逆転で優勝。4強入りした湯布院や上津役の健闘も光った。西日本選抜優勝大会は予選に続いて女子主将が力投した。直方が優勝。春季全国大会は八幡南が8強入り。逃したが刈田や大分明野も

直方

女子主将・永富千紘は西日本選抜優勝大会決勝で4回無失点と優勝に貢献した

上津役

九州さわやか大会で4強入りした

九州古賀

日本少年野球連盟と同じ1970年に創部した。昨年が50周年。記念大会でも健闘を見せた